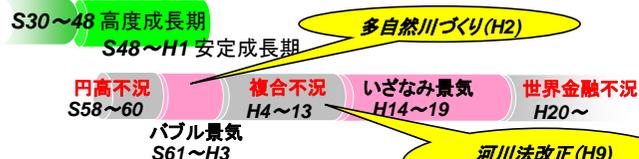


海老川事業再評価について

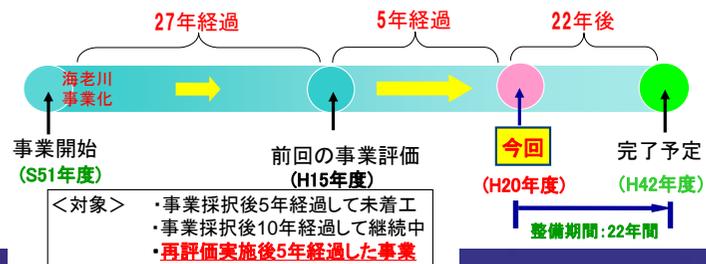
平成21年2月25日
海老川流域懇談会事務局

社会情勢と公共事業のこれまで

【我が国の経済状況】



【海老川の治水事業】



事業再評価のルール

(千葉県県土整備部所管国庫補助事業再評価実施要領)

すべての公共事業について

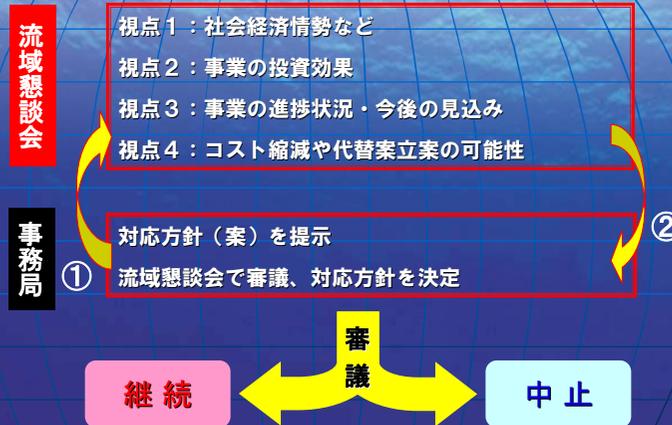
- 1) 河川事業・ダム事業であり
- 2) 河川整備計画策定のための流域懇談会がある場合

地域と密接な関係
計画策定段階から議論

評価監視委員会

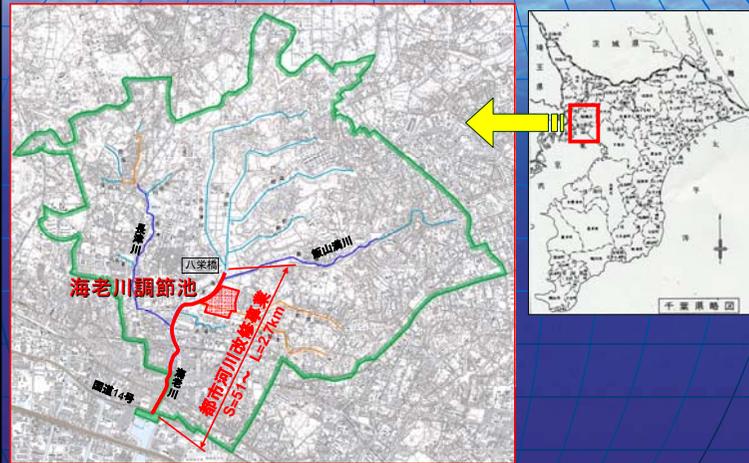
流域懇談会

再評価の手順



流域懇談会の意見に基づき河川管理者が判断

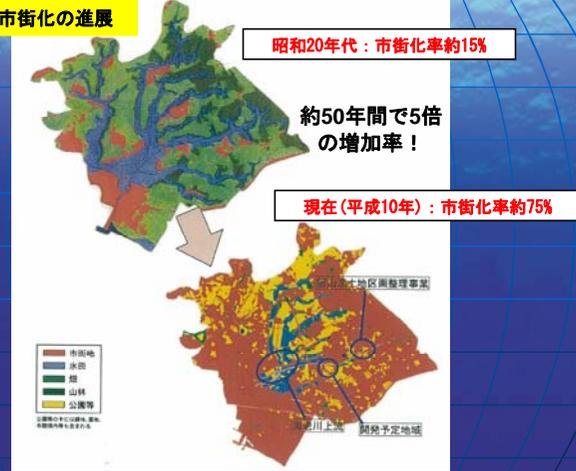
今回の事業対象区間



5

視点1 社会経済情勢等

市街化の進展



6

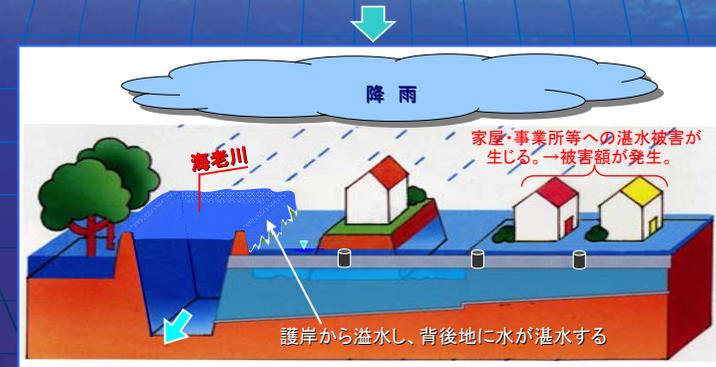
市街化の進展と浸水被害



7

海老川流域における「浸水被害」のしくみ

- ① 海老川流域の雨水は海老川に流入 ⇒ **海老川の水位上昇**
- ② 海老川水位が護岸高より上昇 ⇒ 護岸から溢水し、地盤の低い地域から家屋・事業所などが**浸水**する



8

近年の浸水被害の状況

・ 浸水被害の履歴

発生年月日	原因	総雨量 (時間最大)	浸水面積 ha	浸水家屋 戸		
				床下	床上	計
S51.6.15	集中豪雨	82.3(42.0)	—	102	43	145
S52.7.16~17	雷雨	48.9(20.0)	1.4	67	20	87
S53.7.8	集中豪雨	121.5(82.5)	22.0	714	780	1,494
S56.10.23	台風24号	162.0(41.0)	11.6	422	432	854
S57.8.3	大雨	77.5	—	78	4	82
S57.9.10~12	台風18号	155.5	3.3	406	89	495
S59.6.23	大雨	112.0(23.0)	14.0	605	0	605
S59.7.12	大雨	109.0(103.0)	35.0	1,885	179	2,064
S61.8.4~5	台風10号	208.0(32.0)	81.0	2,031	395	2,426
H元.8.26~27	台風17号	126.0(40.0)	11.5	237	224	461
H3.9.19	台風8号	211.0(38.0)	8.0	12	15	27
H8.9.22	台風17号	257.0(33.0)	63.0	22	0	22

ここ3か年の最大日降水量は107mm、時間最大は35.5mm
→ たまたま大雨がなかった

9

浸水解消に向けた事業の内容

- 海老川調節池建設
- 上流の河川改修

河道への負担軽減
流下能力の向上

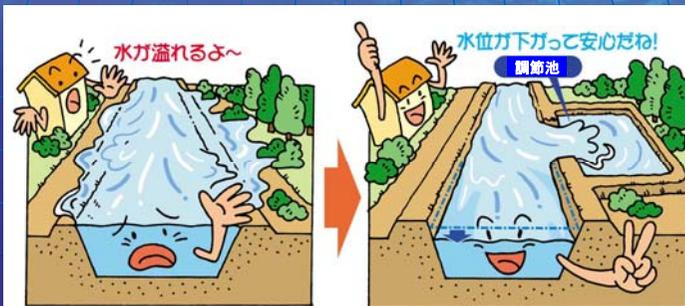


10

浸水解消に向けた事業の内容

- ① 海老川調節池建設

河道への負担軽減



調節池建設前

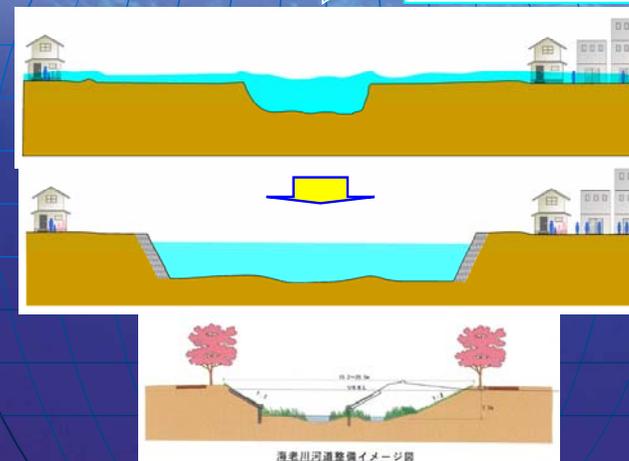
調節池建設後

11

浸水解消に向けた事業の内容

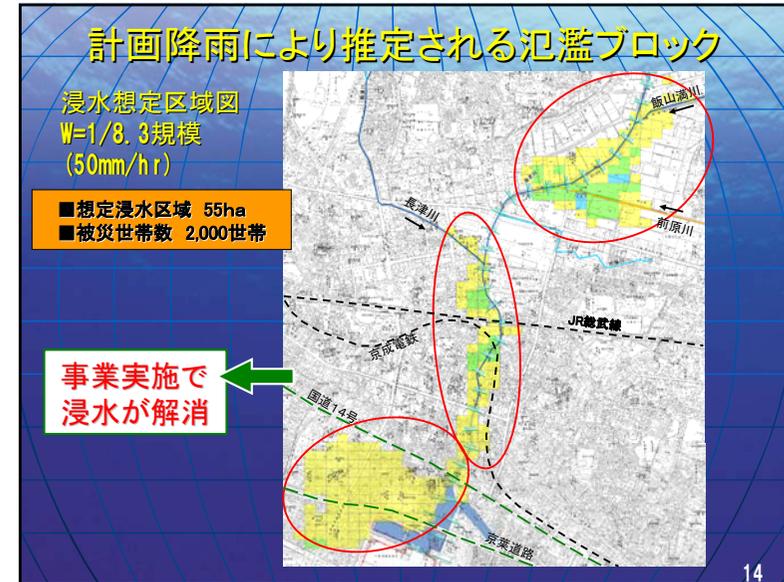
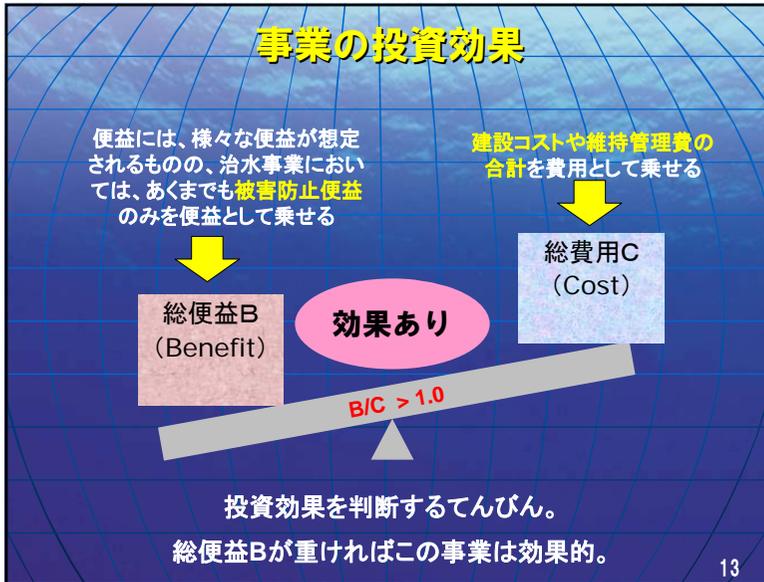
- ② 上流の河川改修

流下能力の向上



海老川河川改修イメージ図

12



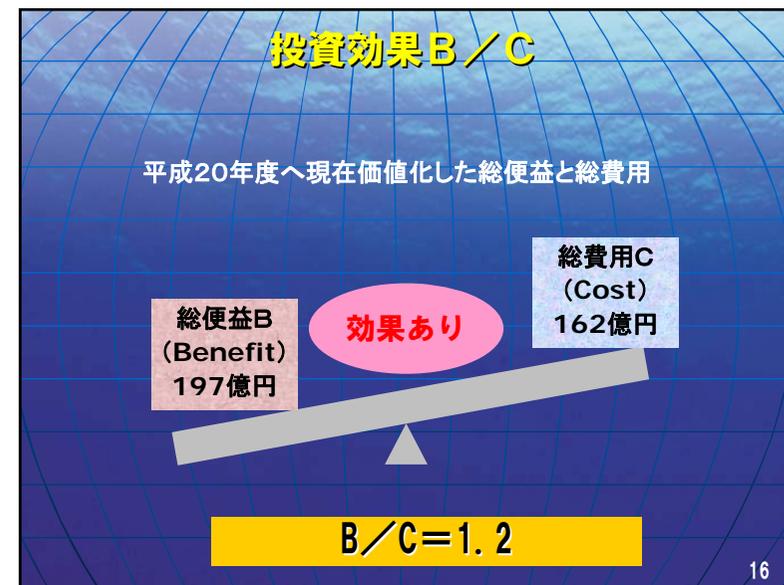
費用と便益

浸水被害の解消 (時間雨量50mmの降雨に対する浸水被害の解消。)

- ◆ 浸水面積 55ha
- ◆ 浸水世帯数 2,000世帯

被害防止便益	188億円
護岸及び用地の残存価値等	9億円
総便益(B) 197億円	
今後の建設費	151億円
事業実施中及び事業完了後50年間にわたる維持管理費	11億円
総費用(C) 162億円	

15



事業継続の必要性

視点1：社会経済情勢等

- ・ 浸水想定区域内は、船橋市の中心市街地であり、市街化が著しく、人口と資産が集中
- ・ いわゆる「ゲリラ降雨」といった突発的、局地的な大雨の発生が懸念
- ・ 事業の主要施設である海老川調節池は、他の河川の洪水流量も合わせて一時的に貯留し、下流市街地の洪水流量を軽減させる流域全体の治水安全度を担う重要な基幹施設

17

事業継続の必要性

視点2：事業の投資効果

- ・ 費用対効果 $B/C = 1.2 > 1$
- ・ 時間雨量50mm/hr(1/8.3規模)以下の降雨に対する浸水被害の解消

18

事業継続の必要性

視点3：事業進捗状況および見込み

<事業進捗状況>

- ・ 河川の進捗率(延長比):約66%
(河口から富士見橋までの約1.9kmが完成)
- ・ 調節池の進捗率(用地取得):約85%
- ・ 事業全体の進捗率(予算ベース):約53%
(実施済事業費251.81億円 / 全体事業費475億円)

<見込み>

- ・ 22年後(平成42年度)

19

事業継続の必要性

視点4：コスト縮減や代替案の可能性

<コスト縮減>

- ・ 調節池建設時に考慮
 - 掘削時の地下水対策(遮水・地盤改良)で考慮
 - ※新技術など適宜採用
 - 掘削土砂を他工事へ流用

<代替案>

- ・ 既に富士見橋までの下流の改修は時間50mmの施設整備が完了、更なる下流での河道拡幅は困難
- ・ 事業の主要施設である海老川調節池は、他の河川の洪水流量も合わせて一時的に貯留し、下流市街地の洪水流量を軽減させる流域全体の治水安全度を担う重要な基幹施設であり代替は困難

20

さらに付け加えると

視点5：地域への恩恵

- ・海老川調節池の整備により、都市域における貴重なオープンスペースが永久的に担保され、平常時には都市における緑地空間として多目的利用を踏まえた整備を図ることで、市民の多様なニーズに対応できる。



海老川調節池多目的利用検討委員会で策定された構想(案) <H13.3月策定>

21

そして、

視点6：地域活動における活動基盤

- ・海老川本川や海老川調節池では、当該地を拠点とする複数のNPO団体が活動しており、開催イベントには多くの市民が参加するなど、市民主体の活動が根付いている。
- ・これら活動拠点となる河川や調節池は各団体にとってシンボリックなものであり、整備により安全で良好な河川環境が創出され多くの市民参加が見込まれることから、コミュニティ喪失の現代にあって、その再構築に大きく寄与する。



第23回海老川親水祭り市民まつり



海老川調節池の活動の象徴である水車



海老川調節池のごみ拾いイベント

22

よろしくご審議ください